

循環モデル 完結

うどん ↓ 廃棄後肥料に ←
→ 小麦「さぬきの夢」栽培



廃棄うどん由来の肥料で育てた小麦を使ってうどんを作る親子＝高松市松並町

廃棄されたうどんの活用を通じて循環型社会のモデルを考える「うどんまるごと循環プロジェクト」が今年、うどんから作った肥料で小麦栽培に取り組んだ。その成果を見学するツアーが5日、高松市内であり、参加者は収穫した小麦でうどんを打った。「うどん県」発の循環モデルがこれで完結した。

見学ツアー45人 手打ち・試食

「うどんまるごと循環プロジェクト」は2012年に始まった。産学官による「うどんまるごと循環コンソーシアム」が、うどん店の廃棄うどんをエネルギーに変えることに取り組んでいる。同市の機械メーカー

「ちよだ製作所」の発酵設備で廃棄うどんからメタンガスをつくり、メタンガスを燃料に発電している。

今年メタンガスを取り出した後の残りがすを液肥にし、県産小麦「さぬきの夢2009」の栽培に使った。見学ツアーのうどん手打ち体験にその小麦が提供された。

親子連れら45人は、同市

内の「さぬき麵業」で自ら打ったうどんを味わった後、ちよだ製作所の発酵設備などを見学した。兵庫県から参加した消費生活アドバイザーの児仁井みどりさんは「うどんをおいしくいただくだけでなく、無駄なく活用する姿勢に感心した」と話した。同コンソーシアムの角田富雄会長は「廃棄うどんからうどん

ができる仕組みができた。今後は、教育現場やうどん店に循環の輪を広げて

いきたい」と意気込んでいる。
(細川治子)